

平成 29 年度 次代のまちづくりプロジェクト活動報告書

平成 29 年度次代のまちづくりプロジェクトチーム（以下、まちプロ）は、メンバーを庁内掲示板にて募集し、応募のあった 8 名に対して、5 月 22 日に任命式を行い発足しました。任命式以降は毎月第 2、4 週の木曜日の業後 5 時 30 分より集まり定例会を行い、様々なプロジェクトについて、議論を重ねてきました。

平成 29 年度の活動概要については、以下のとおりです。

○ メンバー 10 名（うち事務局 2 名）

○ 活動内容の紹介

	主な活動	活動回数
5 月	任命式	1
6 月	定例会	2
7 月	定例会	1
8 月	定例会	4
9 月	定例会	2
10 月	企画公室との協議 定例会 町長への中間報告会	3
11 月	定例会 視察研修	2
12 月	定例会	1
1 月	政策推進会議での報告会 定例会	2
2 月	定例会	1
3 月	視察研修報告会 定例会	2
合計		21

○兵庫県豊岡市への視察研修

健康寿命の延伸を目的とした様々な取り組み、そして多くの市民が参加するイベントの実施を通じて、文化芸術の振興の方策について新しい発想と見識を学びに行きました。

【視察内容】

- ・豊岡市が進めてきたまちづくり「小さな世界都市」について
- ・文化芸術振興計画
 - ①あるものを活かす（城崎国際アートセンターの設置、芝居小屋永楽館の再生）
 - ②舞台芸術によるコミュニケーション教育について
 - ③豊岡アートシーズンについて（元々行われていた地域の文化資源活用や豊岡市や市民が実施している文化事業を実施主体の連携も含め、まとめなおしたもの）
- ・健康づくり
 - ①健康ポイント制度について
 - ②玄さん元気教室について
 - ③職場対抗“歩キング”選手権について

○ まとめ

今年度は、まちプロに初めて参加する者に対して、経験者がサポートしていく形となり、相互のスキルアップに繋がったのではないかと感じます。新しい取組みとして、オープンストリートマップを活用した、自分で地図を作り上げていく「マッピング」を実施することができました。

○ 平成 29 年度提案プロジェクト

	プロジェクト名	ページ
1	かつらぎ町リノベーションまちづくりプロジェクト	3
2	音楽協会の立ち上げ	4-5
3	かつらぎバル	6-7
4	シビックテックの推進	8

提 案 書

プロジェクト名：かつらぎ町リノベーションまちづくりプロジェクト

1. ねらい・目的

民間と公共の空き家・空き地（遊休不動産・公共空間）を活用して、かつらぎ町に住んで、子育てして、働きながら暮らし続けられるまちを、リノベーションまちづくりで実現する。

2. 実施事項

- ①空き家・空き店舗等遊休不動産の把握
- ②リノベーションスクールの開催
- ③リノベーションまちづくり構想の策定

3. 詳細内容

かつらぎ町には、空き家・空き店舗や空き地、利用度の低い公共施設・道路など、民間と公共ともに遊休不動産が多くある。

これら遊休不動産を活用して、リノベーションまちづくりに取り組む。

リノベーションまちづくりとは、今あるものを活かし、補助金にはできるだけ頼らず新しい使い方をしてまちを変えること。

その取り組みの一つとして、リノベーションスクールを開催する（県内では和歌山市と田辺市で開催実績あり）。

リノベーションスクールとは、リノベーションを通じた都市再生手法を学び、体験する場。

スクールの受講生は、実際の空き物件（遊休不動産）を対象に、全国から集まった参加者たちが、「ユニット」と呼ばれる10人程度のチームを組んで、3～4日間でリノベーションの事業プランを練り上げ、最終日に遊休不動産のオーナーに提案し、スクール後にその提案をもとに実事業化を目指す。

この取り組みを活用して、かつらぎ町内の雇用の創出やかつらぎ町への移住交流者人口の増加を図り、かつらぎ町に住んで、子育てして、働きながら暮らし続けられるまちを実現する。

4. コスト・予算等

5. デメリット

6. スケジュール

提 案 書

プロジェクト名：音楽協会の立ち上げ

1. ねらい・目的

- ・音楽を用いたまちづくりの活性化

2. 実施事項

- ・音楽協会の立ち上げを行う
- ・音楽活動に関する窓口になること
- ・施設への定期訪問演奏会
- ・町民音楽祭の開催
- ・音楽行事の情報発信
- ・音楽ワークショップの開催
- ・研修会の実施

3. 詳細内容

○音楽協会の立ち上げ

市内の音楽団体に声掛けをし、協会を設立する。

例：公民館で活動する音楽団体、総合文化会館を利用する団体

○施設への定期訪問演奏会

老人ホームや保育園、小学校などを定期的に訪問し、演奏会を行う。

・音楽団体の現状

現在は音楽団体が個々で依頼を受けて訪問演奏したり、発表会を行ったりしているが、聞きたい音楽や演奏してもらいたい音楽団体の問い合わせ先が分かりにくい状態。

→協会が窓口となることで、依頼者と音楽団体の間に立つ。

○町民音楽祭の開催

音楽団体が日ごろの練習の成果を披露する場とする。

→・町内にどんな音楽団体があるのかを知ってもらう。

- ・興味がある人に団体に参加するためのきっかけを作る。

○音楽ワークショップの開催

音楽技術の向上と人と人のつながりづくりを目的に行う。

- ・講師を招へいし、様々なジャンルで講習会を開催する。
- ・何人かで一緒に練習する時間を作り、交流の場を作る。

○音楽行事の情報発信

- ・音楽団体の演奏会情報や訪問演奏の予定をHPなどで発信する

垣根を越えたつながりができ、まちづくりの活性化につながる

- ・音楽活動をする人たちにとって窓口になれるようにする。

○研修会の実施

- ・参加者を募り、音楽活動をする人たちの交流の場を設ける。
- ・研修会を通して、新ジャンルへの挑戦のきっかけやコラボレーションのきっかけづくりをする。

4. コスト・予算等

- ・運営費（印刷代、郵送費など）

5. デメリット

6. スケジュール

提 案 書

プロジェクト名：かつらぎバル

1. ねらい・目的

- ・交流人口の増加と町民向けへの町内飲食店のアピール

2. 実施事項

- ・イベント期間を設けて、町内飲食店に通常営業の中で「フルーツを使った料理」や「米油を使った料理」などテーマを限定した特別メニューを出してもらう
- ・参加者には5枚1組となったチケットを販売し、チケット1枚で料理1品、ドリンク1品を食べ飲みしてもらう

3. 詳細内容

準備段階

1、かつらぎバル「テーマ食材」の決定

町内で取れたフルーツや米油、ごま豆腐など町内における特産品の中でテーマとする食材を決定する

2、バル参加店舗の募集

町内の飲食店を対象に、飯フェス参加店舗を募集し、テーマ食材を使った特別メニューを考案してもらう。

3、チケットの予約販売

インターネットなどで、チケットの予約販売を行ないます

目安：1組（5枚入り）3,000円～3,500円

4、パンフレットの作成

参加店舗や出品メニューを記載しているパンフレットを作成し、チケット購入者に配布します

イベント期間中

目安：2週間

1、飲食店

チケットを持ってきたお客さんを対照に特別メニュー1品とドリンク1品を提供してもらう

2、参加者

チケットを持って、パンフレットに記載している飯フェス参加店舗に行き、チケットと引き換えに特別メニュー1品とドリンク1品を楽しむ

イベント期間終了後

1、換金作業

店舗で持っているチケット1枚につき500円で換金します。

仮にチケット1組3,000円とすると1組当たり、500円の利益が出ます。

<p>4. コスト・予算等</p> <p>広告費・チケットの印刷費</p>	<p>5. デメリット</p> <p>テーマ食材を1つに絞ることにより、特別感や一体感を作り出すことが出来ると思います。</p> <p>たくさん有るかつらぎ町の名産品の中かからいかに1つに絞るかがポイントとなります。</p> <p>そのため、町会計内で実施するよりも</p> <p>①商工会や観光協会に委託</p> <p>②商工会を中心に実行委員会を設立</p> <p>以上のどちらかで実施することで円滑な進行ができるかと思います。</p>
<p>6. スケジュール</p> <p>6ヶ月前 テーマ食材・開催日の決定</p> <p>店舗への参加依頼</p> <p>3ヶ月前 参加店舗の決定</p> <p>各店舗に特別メニュー開発の依頼</p> <p>広報の開始</p> <p>2ヶ月前 パンフレット・チケットの作成</p> <p>1ヶ月前 前売りチケットの販売・配布開始</p> <p>開催期間 各店舗の販売状況の把握（※売れ行きが良くない店舗があれば、HP や SNS で呼びかけ）</p> <p>終了後 各店舗を訪問し、チケットと引き換えに500円を渡す。</p>	

提 案 書

プロジェクト名：シビックテックの推進

1. ねらい・目的

インターネットの便利なサービスが増えて、住んでいる地域や身の回りの困り事を解決する手段として使いやすくなってきています。そして、「自分たちで何かやってみよう！」と思う人や企業が増えてきています。

例えば、ごみの収集日が分からない人向けに、「いつ、どのごみが収集されているのか？」がひと目で分かる「5374.jp (ごみなし)」というアプリがボランティアで開発され、配信されています。

また、グーグルマップに代表される、企業が提供する地図サービスに対し、ボランティアによる OSM (オープンストリートマップ) と呼ばれる地図サービスが誰もが自由に使える形で配信されています。

これらのサービスがシビックテックといわれるものです。

本町においても、住民が抱える悩みや課題に対し、ICT を用いて解決する、という住民の自発的な活動を支援していくことを目的とします。

2. 実施事項

- ・ 5374.jp のかつらぎ版の開発
- ・ OSM (オープンストリートマップ)

3. 詳細内容

自分たちの課題を自分たちで解決するという体験をするため、実施事項のワークショップを開催します。ワークショップの参加者から、このようなシビックテックの取り組みを継続的に希望する者を集め、シビックテックの推進団体として「Code for KATSURAGI (仮称)」を組織します。

役場は会議室の提供や、広報等を支援します。また、アプリやサービスの開発に必要なデータをオープンデータとして提供します。啓発活動としてシビックテックの理念や事例などを紹介する講演会を開催します。

4. コスト・予算等

講師謝金等

5. 懸案事項

役場が最初から主体的に動くと、住民の中から主体的に動こうという機運が育ちにくいいため、役場はサポート役に徹することが肝要です。

6. スケジュール

17.9～17.12 ワークショップ開催

18.1～18.3 講演会開催